

ムのマナーメント」を連想するならば、この本は「教育学ではない」。例えば賢治の「逆擬人法」。クマが人間の言葉話すのではない。人間がクマになる。自然を人間化するのではない。人間が自然の中に溶けてゆく。人間中心主義から離れてゆく生の技法。人間中心・理性中心・自我中心に留まる限り見えてこない「生成変容」の出来事。その地平に「純粹贈与」の出来事が見えてくる。「贈与を物語る不可能性と可能性」が問いとなる。そうした繊細な問いが近代学校システムによって塗り込まれてゆく。その絶望と対峙しながらそれでも「教育（もはや教育ならざる教育）」に踏みとどまるスタンスに共感。

2 鈴木忠『生涯発達のダイナミクス——知の多様性 生きかたの可塑性』（東京大学出版会、二〇〇八年）
心理学の本で久々に面白いと感じた一冊。世阿弥の稽古論をまともながら読んだこともあって、習道稽古の問いを現代心理学の知見で解き明かす試みに思われた。経験を生かすとは。熟達化に至る練習とは。暗黙知としての実践的知能とは。実験をデザインする問題意識の深さ、実験データを使いこなす視野の広さを教えてくれる。

3 ゲルト・タイセン『原始キリスト教の心理学——初期キリスト教徒の体験と行動』（大貫隆訳、新教出版社、二〇〇八年）
以前読んだ時はよく分からなかった。今回世阿弥研究の一環として読み直して実におもしろかった。フロイト精神分析をもって複式夢幻能を読み解く。そう聞いて図式的な対応関係を思い浮かべるならこの本は違う。複式夢幻能のドラマトウルギーの解明としても実

ズシリと重い。まだ読み通すことができない。しかし貴重な本である。重要な問題が凝縮されている。福音書に接した誰もが感じる問い。新約聖書に触れた誰もが抱く不思議。「魂とからだ」「経験と体験」「霊性と知性」「儀礼と倫理」「神秘主義とグノーシス」。そして「歴史的宗教心理学」という方法。これを「心理学」と呼んでよいなら、心理学はどんなに魅力的か。

4 山口一郎『文化を生きる身体——間文化現象学試論』（知泉書館、二〇〇四年）
「仏教哲学と身体性」「唯識哲学と身体性」「禪仏教における身体性」……。東洋思想と現象学の交差領域。後期フッサールの視点から東洋思想の根底をなす「身体性」や「無意識」の地平を解き明かす大著である。東洋思想研究であると同時に現象学の視座を明確に浮き彫りにしている点でも貴重。井筒俊彦「東洋哲学」と重ねながら、あらためて精読したい。

5 金関猛『能と精神分析』（平凡社、一九九九年）
以前読んだ時はよく分からなかった。今回世阿弥研究の一環として読み直して実におもしろかった。フロイト精神分析をもって複式夢幻能を読み解く。そう聞いて図式的な対応関係を思い浮かべるならこの本は違う。複式夢幻能のドラマトウルギーの解明としても実

1 三島由紀夫『恋の都』ちくま文庫、二〇〇八年
一九五〇年代に雑誌「主婦の友」に連載された作品の文庫化。軽い筆致ながら、明るい虚無感がたまたまよっており、さすが三島である。
2 網野徹哉『インカとスペイン帝国の交錯』講談社、二〇〇八年
インカ帝国崩壊後の歴史を、スペイン本国

の歴史と並行して紐解いた力作。タワンテインスルーが文字通りまともな存在ではないことがスペイン征服後にも尾を引いていることなど、子供時代からあこがれてきたインカ文明のまったく違った側面を知ることができた。江戸時代初期に、リマ市内に日本人が二十名存在したという資料は、人間の移動を考える際の貴重な示唆を与えてくれる。異端審問官がスペイン帝国で設置された理由も納得した。

ム解析も終わりの方で触れているが、ゲノム配列決定が安価になれば、近い将来腸内細菌を毎朝ゲノム決定して、昨夜の食事とどんな細菌がどれくらい増減したのか、ただちにわかるようになるかも、と思ったりした。
4 ブラッドリー・エドワーズ&フィリップ・レーガン著、関根光宏訳『宇宙旅行はエレベーターで』ランダムハウス講談社、二〇〇八年
宇宙エレベーターの発想は昔からあった。しかしそれを実用化することは不可能に近いと思われる。実用化の鍵とされるカーボンナノチューブが本書で何度も登場するが、それを発明したのは飯島澄男氏だったはずなのに、一度も名前が言及されていないのは残念。こんなに安く宇宙に出ることができるのなら、早く事業化すべきであろう。

九八五年—
二〇〇年以上にわたって描き続けられている本シリーズの主人公も、ついに社長就任。社長シリーズ第1巻に出てくる、人間を差別しない姿勢を見せた主人公の少年時代のエピソードは泣かせる。
上野千鶴子
(社会学)

白夜に紡ぐ

●志村ふくみ いま祈る気持
持てたいとおしく愛すべきもの
のたちに想いを寄せる最新
書下ろしエッセイ。 ¥2940

文化の三角測量

—川田順造講演集—
●川田順造 アフリカ・フランス・日本—ヒト・モノ、
社会への類稀な観察 ¥2730

台湾女性史入門

●台湾女性史編纂委員会編
植民地支配と台湾女性の過去
現在。台湾本国でも稀な
女性史「発見」の試み ¥2730

映像論序説

—(デジタル/アナログ)を越えて—
●北野圭介 最新の理論を
導入し、メディア論の大幅
な刷新を試みる。 ¥2730

エコ・ロゴス

—存在と食について—
●雑質恵子 生物にとって
「食べる」とは何か。生と死
をめぐる新たな思考 ¥2625

テキストと人文学

—知の土台を解剖する—
●齋藤晃編 テキストの起
源から機能までを見直し、
新しい方法論を追求 ¥3360

(表示価格は税込です)

人文書院

京都市伏見区竹田西内畑町9
☎075-603-1344 FAX075-603-1814
http://www.jimbunshoin.co.jp/